

東北工業大学建築学部建築学科 学生クロストーク

東北工大で学んだ 建築の“広がり”と “繋がり”

出席者

修士2年	高橋 辰弥 さん
修士1年(司会)	秋葉 美緒 さん
建築学科4年	櫻井 歩武 さん
建築学科3年	上野 真央 さん
建築学科2年	菅野 優祐 さん
建築学科1年	邊見 華 さん
オブザーバー	石井 敏 建築学部長 船木 尚己 建築学科長



石井 建築学部が開設されて4年が過ぎ、昨年3月には初の卒業生も輩出しました。大学院に進学した方もいるので、今回の座談会は1年生から大学院生まで幅広く集まっていたり、学びのことや将来のことなど、自由に率直に話していただこうと企画しました。また、ここに集まった皆さんにとっても先輩の姿を通して1年～数年先のことを学ぶ良い機会になりますので、気兼ねせず自由に話して、その後の交流にもつなげてもらえればと思います。では、ここからは進行を秋葉美緒さんにお願いします。



建築を志したきっかけ

秋葉 よろしくお願ひします。初めはお互い初対面ということで、緊張をほぐす意味でも自己紹介を上級生からどうぞ。

高橋 修士2年の高橋辰弥です。出身は青森県八戸市で青森県立八戸北高等学校の普通科を卒業しました。船木研究室で、地震のエネルギーを吸収するダンパーの研究をしています。

秋葉 あらためて修士1年の秋葉美緒です。出身県は山形県で、高校は山形中央高校の普通科を卒業しました。齋藤研究室で意匠計画系を学んでいます。

櫻井 4年の櫻井歩武です。出身は宮城県塩釜市で、宮城県塩釜高等学校の普通科卒業です。菊田研究室でコンクリート系の研究をしています。

上野 3年の上野真央です。出身は秋田県で、聖霊女子短期大学付属精霊高等学校の普通科卒業です。研究室は石井研究室です。

菅野 仙台市出身の2年菅野祐介です。仙台大学付属明成高等学校食文化創志科卒業で、高校では3年間料理の勉強をしていました。

邊見 1年の邊見華です。私も仙台市出身で、仙台工業高等学校建築科の卒業です。**秋葉** ありがとうございます。工業高校出身は邊見さん1人だけですね。それでは、建築を志したきっかけを同じく上級生からお願いします。

高橋 建築は、いわゆる理系と文系の両方を含んでいる学問だということがありました。高校は理系のクラスでしたが、大学受験直前で文系に転向して、浪人を経てまた理系に転向しました。文系と理系どちらかに決めきれなくて、できれば両方に触れていたいという思いの中でたどり着いたのが建築でした。

櫻井 僕は2つありまして、子どものころからレゴブロックでよく遊んでいるようなモノづくりが好きでした。2つ目は、幼稚園

の年長ぐらいの時に新築した家の木の香りが本当に心地よくて、建築に携わったらこういう香りにずっと触れることができると思いました。ものづくりが好きだし、将来自分で家を建てるとなった時に知識も活かせると思い建築を選びました。

上野 私も似た部分があって、家を新築した時に目の前で建築士の仕事を見て憧れを抱いたのがきっかけです。あと、父と祖父が建築関係に携わっていて私もモノづくりが好きというのがあります。

菅野 僕は中学生のころから料理が好きで、高校もその分野に進みました。父の知り合いでフレンチシェフの方がいたので、そこでアルバイトをしながら“将来は海外で”という夢を持っていましたが、新型コロナウイルスの影響もあり何か違う方向にチャレンジしてみようと思いました。ただ“ものづくりには携わりたい”という思いがある中で、料理はお皿の上で表現するんですけど、建築も図面の上やCAD画面などで表現すると

ころが似ているなど感じました。いろいろなオープンキャンパスにも参加し、最終的に東北工大を選びました。

秋葉 料理から建築と全く違う分野に思われがちだけど、逆につながっていると。

菅野 通じるところは結構あると思います。繊細さが要求されるという点ではフランス料理も建築(建物)も一緒だと思います。**邊見** 私も小さいころからモノづくりが好きでした。ある時、建築の雑誌を見る機会があって、そこに掲載していた建物に魅力を感じて意匠・デザインの仕事に進みたいと思い工業高校に進みました。その後、3年間学びましたが“絶対に足りない。大学でもっと学んで意匠の仕事がしたい”と思い工大建築に入りました。

秋葉 ありがとうございます。皆さんの話を聞くと、幼いころからだったり家の環境だったり、きっかけはそれぞれですね。私は高橋さんと似ていて、高校生までは“何となくどうしようかな……”とか考えているタイプだったから、そうした意味でも裾野が広い建築に関心を持ったということは皆さんに通じるところもあり、それこそ何か極めたいという人にも向いている分野だと思います。

次のテーマでは、失敗談とか経験談などをうかがいましょう。先輩からのアドバイス、ということにもなるかもしれません。上野さんは研究室選び迷いませんでしたか？

上野 私は3年生になってから結構ドタバタしながら決めた(石井研究室)ので、2年生のうちから「先生方がどのような研究をしているか」や「自分がどのような分野や内容に興味があるのか」などを将来の夢と重ねて考えていったらいいと思います。

秋葉 決める際は石井先生に話しかけたり、先生の本を読んだりしました？

上野 夏休みから石井研のプロジェクトに無理をいって参加させていただき、オープンラボ(研究室訪問)にも積極的に参加しました。

学びから得たやりがい

秋葉 “課題は大変だったけど楽しかった”

など達成感ややりがいを感じた時はありましたか？

上野 設計の授業で、自分のアイデアが形に残るのは達成感がありますね。

櫻井 僕が苦労したのは、やはり設計の授業ですね。工業高校出身の方が、どうしても知識や引き出しが多かったりして、なかなか最後の発表で自分が選ばれなかったりしました。そこで、みんなの発表をしっかり聞きながら、自分も引き出しを増やす努力を重ねました。最後の設計の授業ではちゃんと自分の発表ができるようになりました。やはり知識を広げるっていう意味では、実際にさまざまな建築に触れた方が知識も増えますし、楽しく設計ができたのかなって思います。あと4年生になって思うのは、何より単位は落とさない(笑)。**秋葉** 落とさないための工夫はありましたか？**櫻井** しっかりと授業に出席して課題も提出する。という当たり前のことを当たり前にするってことだと思います！

秋葉 設計課題は、模型や図面を制作して提出するだけでなく最後にプレゼンテーション(発表)がありますね。人に「伝えること」は大変ではなかったですか？

櫻井 人前で話すのは緊張して大変でした。**秋葉** 今度は下級生のお2人から、今現在「大変なこと」を聞きたいと思います。邊見さんからいいですか。

邊見 設計課題の量と質が高校時代とは全然違います。高校のころは最初から条件が結構ありましたが、大学ではそれが少なく“ふわっとした”もので、自分で考えなければならぬ要素が多いですね。それをどのように形にしていけるのか、考えるのは苦労しています。

秋葉 そういった時はどうしていますか？

邊見 先生に相談する場合がありますが、本などでもたくさん事例を調べて、どのように考えればいいのか参考しています。

菅野 僕は、設計課題はもちろんですけど、課題と同時に並行である材料実験は本当に大変でやめてほしいです(笑)。実験自体は楽しいですけど、数値の計算やその後のレポート提出とか……。ちょっとやだなって感じます。



秋葉 どうやって乗り越えています？

菅野 気合い! しかないです。もちろん徹夜も(笑)。

秋葉 建築の学びの特徴かもしれませんが、設計課題と他の授業との両立が大変だと今の話を聞いてあらためて思いました。高橋さんはどうですか？

高橋 僕は学部の方が個人的な事情もあり大変でした。特に1、2年生の時は単位をめちゃめちゃ落としたり、構造系の畑中友先生にもすごい迷惑をかけたとか。3年生後期〜4年生で研究活動が始まってからは大学にもきちんと来るようになりました。もちろん単位は落とさないに越したことはないですけど、仮に落としてもその後頑張れば何とかカバーできます。大学院まで進学することもできました。

秋葉 この中で一番長く東北工大で学んでいる高橋さんにとっての達成感は何ですか？

高橋 やはり論文を書き上げた後の達成感や開放感ですね。それまでずっと研究室に籠りがちになるので。一方で設計は本当に苦手です。自分で見返しても変なのしか作ってないので、そのあたりのアドバイスはできませんが、研究については楽しいし、アドバイスもできます。

大学生生活の楽しさ

秋葉 今度は1年生から聞きましょう。学びを含めた大学生生活で楽しいことは何ですか？

邊見 高校と違い大学は専門科目が増えて、自分の興味があることをたくさん学べることが楽しいです。

秋葉 大学は自分で選択する授業が多いですよ。特にどの授業が楽しいですか？

邊見 不破先生のまちづくりに関する授業は学んでいてすごく楽しいです。例えば仙台市太白区役所の職員の方から話を聞く機会があり、まちづくりや建築を進めるうえでそれを担う行政の方から授業の枠にとらわれないさまざまな話を聞いたこととても楽しかったです。

菅野 先ほど設計課題と材料実験のレポートの同時並行は大変という話をしましたが、逆にあれぐらい忙しいからこそ身に付いているという実感もあります。例えば試験期間に力学についてたくさん勉強した後ラーメンを食べながらラーメン構造のことを思い出したりとか(笑)。その最中は忙しいし、大変だし、嫌だけど、終われば楽しい思い出に変わります。

石井 思い出に残ることって、そういう大変な時のことだね。

秋葉 続いて上野さんお願いします。

上野 私も自分の考えたことや時間かけて作ったものが形になった時にすごく楽しいなって思います。あと、建築計画、都市計画やインテリアデザインで学んだことが設計の課題で繋がった時にも、“勉強してよかった、楽しいな”ってすごく思います。勉強以外ではダンスサークルとバレエ部に所属しているので、イベントや試合などを通じて友達と交流できることも楽しいです。

秋葉 私も授業で学んだことがどこかで“繋がる”ってことが結構あると思っています。高橋さんはどうですか？

高橋 構造デザインを修士1年生の時に少し手伝いました。自分の中にかろうじて残っていたデザインの知識と経験が、専門の構造とうまく繋がったときは、やはり建築は幅広いなと感じました。それもただ広いだ



修士2年
高橋 辰弥さん
研究室 船木研究室
出身県 青森県
出身高校 八戸北高等学校

けじゃなくて、学んでいたことがバラバラではなく繋がっているんだということも感じました。広く学ぶことで繋がる、それが建築の楽しさかもしれません。

秋葉 高橋さんは建築を学んでいて楽しいことはありましたか？

高橋 例えば自分が研究している構造でいうと、「理論」があるのですが、でも実際の地震の時に建物は理論通りの振動をするか、という必ずしも一緒にならないところがおもしろいです。もちろん理論で説明できることもあれば、それだけではない奥深さが学んでいて楽しいと思いますね。

秋葉 では最後に櫻井さんお願いします。

櫻井 授業でいうと、やはりものづくりが好きなので模型を作るときにスチレンボードを片面残して切って、最後に接着した時にぴったり合った時に気持ちが良いです！ちなみに模型を作る際におすすめなのが、片面残しの部分に少しだけ糊を付けて、それを爪楊枝で伸ばすときれいにいきますよ。**菅野** ちょうど2週間後に模型提出なので参考にします(笑)

櫻井 あと、3年生だったか八木山動物公園前の広場デザインを新しくする課題が楽しかったですね。授業以外では、昼休みの時間などに友達と体育館でバスケットボールをしたことなども良い思い出です。僕は2年の材料実験で新しくグループ分けされた際に新しい友達ができ、そこから繋がって友達が増えていきました。

秋葉 授業のグループ分けは友達を増やすチャンスですね。あとは英語や体育も。下級生の皆さんも、まだまだ新しい友達と出会う機会はたくさんありますよ。では、ここから東北工大建築学科の話題に移りたいと思います。工大建築を志したきっかけや理由はなんですか？

高橋 僕は浪人して予備校に通いながら他の大学を目指していました。でもあまり真面目に勉強していなくて。そうした中で、東北工大は奨学金もいろいろあることが分かり受験しました。実際に入学すると、嘘じゃなくて本当に良かったなって思っています。研究室の船木先生と関わり合えたことももちろん、地震が多い東北ならではの研究テ

マに出会えたことなど、振り返ってみるととても良い選択だったと思っています。正直に言うと、最初は不本意入学でもあったので……真面目に勉強もしないで単位を落としたりもしました。でも3年生ぐらいから自分の興味の方向性とかがわかってきた段階で勉強を突き詰められる環境ができて、現在はとても充実した毎日を送っています。

秋葉 菅野さんお願いします。

菅野 先程も話したように高校が調理科で授業も調理がメインだったため数学ⅡBやⅢなどもまったくやっていませんでした。そうなると受験可能な科目が厳しい状況でした。でも進みたい方向(建築)はある。そうした中、指定校推薦で東北工大の枠があったのでオープンキャンパスに参加してみました。そこでいろいろな先生から話を聞くことができ、とても惹かれました。その後は何とか成績を落とさないように頑張って最後の推薦枠をつかみ取りました。

秋葉 どのあたりで他の大学との違いを感じましたか？

菅野 先生方と話す時間が長かったので自身の濃さが違ったこともありましたが、何より実務経験を積んでいる先生方が多いし、施設設備も整っているなど学修環境が良いと思いました。

秋葉 オープンキャンパスでの経験が選択の大きなきっかけとなったんですね。続いて上野さんを願います。

上野 普通科高校から工業系の大学に進めるのが不安でした。でも大学進学説明会に参加した際に東北工大の職員の方から“普通科出身の学生にも寄り添う授業をしてくれるよ”とアドバイスいただいたのが大きな理由です。また、兄の友人にも東北工大の方がいたので、いろいろと話を聞いて決めました。

櫻井 私も普通高校出身で建築のことは何もわからなかったのが、基礎的な部分から学ばなら工大の建築学部かなと思志望しました。

邊見 私は高校のころ担任の先生に就職か進学かで悩んでいることを相談しました。先生から“就職はあなたの夢とは違うと思うよ”とアドバイスされて進学を決めました。



修士1年
秋葉 美緒さん
研究室 齋藤研究室
出身県 山形県
出身高校 山形中央高校

そこからオープンキャンパスにも参加しました。以前から“建築といえば東北工大”のイメージがありました。実際に参加したらすごく楽しそうでした。雰囲気よかったですし、加えて先生方の話も大変参考になり東北工大に決めました。

秋葉 最後に私も。普通高校出身で大学受験では第1志望に落ちました。そこで高校の先生に相談した時に、東北でほかにも建築を学べる大学があるよ、という中で東北工大を勧めていただいたのが大きかったです。

ここからはまた話題を変えて、学校生活や将来の夢、下級生やこれから東北工大を目指す高校生に伝えたいことなどを聞いていきたいと思います。まずはアルバイトや課外活動など課外活動も含めた大学生生活の楽しいところを邊見さんお願いします。

邊見 たまに来るキッチンカーにテンションが上がります(笑)。ワッフルやパンなどいろいろある中で、たこ焼きが一番好きです。アルバイトは仙台駅近くのカフェで働いています。勉強との両立も大変ですけど、すごく楽しいです。課外活動はMSKWG(民家再生活用ワーキンググループ)に参加しています。

高橋 僕は学部のこと特にサークル活動はしていませんでした。大学院では結構長い時間大学にいますが、先生が身近にいて、とても相談しやすい雰囲気と環境があると思います。

菅野 僕もアルバイトのほか、仙台駅近くで建築学生のためのカフェを作るためのプロジェクト(インターン)に計画初期のころから関わっています。いよいよ来月(11月)オープンするので、いまはそれが楽しみですよ。

うがないです。

秋葉 インターンでは具体的に何を？

菅野 電話で企業に協賛金の依頼をしたり、設計や施工のお手伝いなどを行っています。これとは別に、仙台駅近くのナチュラルワインを提供するバーでアルバイトもしています。料理（フランス料理）も好きだし試飲もできて楽しいです。

上野 最近は空き時間などに友達とカードゲームをすることにまっています（笑）。Tech-Lab（てくらば）などに10人くらいで集まって、研究室とかも関係なしに仲間と楽しんでいます。

櫻井 僕は趣味が増えたことが大きいですね。大学1年生の時に友人3人と初めてカフェでコーヒーを飲みました。苦すぎて砂糖を3本も入れました（笑）。それでも苦くて、このままでは“かっこ悪いな”って思い、ブラックコーヒーが飲めるようになることを目標に徐々に慣らしていきました。おかげで今ではカフェもコーヒーも好きになりました。あと高3の頃、ちょうどコロナ禍で家にいる時間も多くなり映画を見るようになったんです。今は電車通学の時間が1時間くらいあるので、そこで映画を観ながら通うのが楽しいかな。

秋葉 アルバイトや課外活動など、皆さんそれぞれに楽しんでいる様子がかうかえしました。それでは最後に後輩等に伝えたいことと目標を聞いていきたいと思います。

将来の夢や伝えたいこと

櫻井 工大建築の良さは、建築の基礎から専門まで広く学べるところ、基礎的な部分を学びながらも自分の好きな分野を見つ

け、さらにそこを突きつけ突き詰めていける点だと思います。私は商業開発などを行う企業に就職が決まりました。現在は1級建築士の資格取得に向けて勉強中です3年以内には取得したいです。

上野 1年生の時に数学のクラスが習熟度別になっていたことが、私を含めた普通科出身の人にとってとてもやさしい取り組みで、東北工大の良さだと思います。将来についてはこれから就活を始めるところで、今後さらに高齢社会が進むので、例えば福祉と住宅が複合したような介護がしやすい住宅設計ができる人になりたいと思います。

菅野 良さでいうと、例えばそれぞれの専門学びのプラスアルファを先生が付け加えてくれる“濃さ”があると思います。例えば斎藤先生の授業では、ただ建物を作るだけではなく、建築に関わる法規を学ぶことの重要性についても教えていただきました。それが学ぶモチベーションにもなりました。将来については、いまのところ大学院進学か就職かで迷っています。

石井 先輩の立場からいうと、間違いなく“迷ったら（迷った時点で）大学院”ですよ。

秋葉 確かに間違いないですね！私もそう思います。

高橋 変な話ですけど…東北工大の良さの一つに喫煙所が構内にあるところだと思います（笑）。学会などで他の大学に行くこともありますが、構内にないところも多いですよ。僕にとっては喫煙所があるから研究ができて、といっても過言ではありません。

秋葉 キャンパス構内禁煙になったら高橋さんは大変ですね（笑）。

高橋 そこは今後も変えないでほしいです。あとは建築の各分野で繋がるって話もそうですけど、やはり構造に進むからといって他の分野・科目を勉強しなくてよいということではなく、だからこそ全体を総合的に学ぶことが大切なんだと思います。いま構造を研究していても、他の知識が助けになっていますね。将来についてはまだ漠然としていますが、自分が納得できる研究ができたと思っています。

秋葉 最後に邊見さんをお願いします。



建築学科3年
上野 真央さん
研究室 / 石井研究室
出身県 / 秋田県
出身高校 / 聖霊女子短期大学付属高校

邊見 私は先生たちとの距離が近いというのが印象的だと感じました。高校のころは大学の先生って冷たく怖いイメージがありましたが、実際に入ってみたら建築の先生は接しやすい先生も多く、相談もしやすいです。安心して勉強ができるのはすごい良さだと思います。将来は意匠系に進みたいと思っていますが、いまは“自分はまちづくりが好きだ”っていうことに気づいたので、できれば意匠とまちづくりがつながるような建築をしたいなと思っています。公共建築や駅舎なども設計してみたいです。

秋葉 皆さん話を聞くと、やはり建築はデザイン、構造、材料や環境など裾野が広く、それぞれに受け皿がある中で、東北工大は先生方の専門も広いですし、それに応じた学ぶ環境がそろっている、柔軟に自分のやりたいことや特性に応じて学ぶ分野を選ぶことが可能だと思いました。

では最後になります。進路の迷いだったり、学年が進むにつれて生じる悩みだったりありますが、自身の経験を踏まえて下の世代にアドバイスできることがあればお願いします。では1年の邊見さんから高校生に向けて。

邊見 進路を決める時は、進みたい大学についてしっかり調べること、オープンキャンパスに参加することが大切だと思います。事前にインターネットなどで見てはいましたが、やはり実際に行かないとわからないことも多いので、この2つは欠かせないと思います。私はオープンキャンパスで直接先生や学生の話聞いて、その雰囲気聞いてココに決めましたから。

菅野 僕は意匠系を学びたくて入りましたが、工大建築の特徴は、いろいろな分野

が幅広く学べることなので、初めから何かに限定したり、絞ったりする必要はないです。学んで行く中で自分の道が見つかります。僕は構造が苦手だと思っていましたが、実際に学ぶとすごく楽しくて“構造に進むのもありかも”と思う時もあるくらいです。幅広く学ぶことが将来、選択を迫られたときにより多くの切符（選択肢）を手に行っていることにつながると思います。それが可能な環境があるのがこの良いところ

です。

上野 3年生後期での研究室配属にあたっては、自分の興味ある研究分野を決めておくことと先生のことをしっかりと調べることも必要だと思います。加えて就職活動として3年の夏休みからインターンシップがあるので、できれば2年生から自己分析などを進めておいた方が良いでしょう。



建築学科1年
邊見 華さん
出身県 / 宮城県
出身高校 / 仙台工業高校

櫻井 就職活動は早めに取り組むことと、より多くの建築に触れることですかね。あとはあたり前ですがしっかり授業に出て単位を取ることで。あたり前のことをしっかりやっていたら問題ありません。僕も就職が決まり来年から社会人になります。残りの大学生活の過ごし方について友人とも話題になりますが、やはり時間がある時にやれることをやるのが大事ですね。

高橋 僕は学部1年生の時に取得できた単位が、確か10単位ぐらいでした。2年生から気持ちを入れ替えて頑張って取り戻しました。その結果、こうして大学院まで進めました。当時は失敗したと思いましたが、いまでは逆に良かったと思えることも多くあります。あんまり悲観的にならずに、また諦めずに自分の興味に集中することが大事かなって思います。

秋葉 私は皆さんの話を聞いて“焦らず、でも休まず”に尽きるかなって思いました。とにかく建築は裾野が広いですし、悩んだ時に背中を押してもらえ、前を向いて歩いて行ける環境が整っているのが工大建築だと感じました。迷ったら後悔しない方に進めば道は必ず開けると思います。最後に石井先生お願いします。

石井 皆さん長時間お疲れ様でした。知らない者同士で最初は緊張した様子でした



建築学科2年
菅野 優祐さん
出身県 / 宮城県
出身高校 / 仙台大学付属
明成高校

ね。最後はとても良い雰囲気になりました。皆さんの思いや、入学してからのさまざまなことを聞くことができ、私たちにとってもとても良い機会でした。皆さんをしっかり支えて教育して行こうという気持ちにもなりました。今日は特に学年を超えた“繋がり”を感じる座談会でした。現在、建築学科だけでも600人以上の在生者がいます。まだ出会っていない同級生、先輩や後輩がたくさんいます。卒業生は約9,000人います。全国の建築の世界で活躍しています。この先社会に出たら多くの東北工大卒業生に出会い、一緒に仕事をすることもあるでしょう。まずは目の前にあることにしっかり向き合い、一生懸命に学んでください。二度と手に入らない大学生活という貴重で豊かな時間を大切に、思う存分に楽しんでもらえたらうれしいです。今日はありがとうございました。

